

令和5年度事業の概況
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

令和5年度は、多くの国でインフレ抑制のための利上げがピークとなりました。欧米では大幅かつ急激な利上げによる景気後退が懸念されましたが、経済は想定以上に堅調に推移しました。但し、令和6年度は、欧米の金融引き締め長期化による景気悪化、中国不動産不況の深刻化、中東・ウクライナ情勢の緊迫化など、様々なリスクが高まっています。

一方、日本経済にとっては、デフレ脱却に向けた変化が見られた一年でした。コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進み、賃金・物価の上昇率は30数年ぶりの高水準となり、多くの企業で価格転嫁や賃上げが進んだほか、円安の影響もあり上場企業の純利益は3期連続で過去最高を更新する見通しです。

これらの動きを受けて、令和6年3月には日経平均株価が4万円の大台を超えました。また、日本銀行は賃金と物価の好循環が見通せる環境が整ったとの判断から、マイナス金利解除など異次元の金融緩和政策を転換しました。日本経済は新たな局面を迎えようとしており、令和6年度は持続的な成長に向けた分岐点になると考えられます。

当組合の第三次中期経営計画では、『医療界のベストバンクを目指す』として、先生方への確かつ迅速な金融サービスを提供してお客さまの満足度向上を図りました。

当組合としましては、先生方のお役にたてるよう、預金金利は出来る限り高く、貸出金利は出来る限り低く設定しております。令和6年3月末の実績は、預金につきましては、県医師会館新築資金への大口特殊要因があり、年間増加額は△56百万円となりました。また、貸出金につきましては、新規開業や住宅資金等の増加により年間増加額は672百万円となりました。収益につきましては、コア業務純益は204百万円、当期純利益は86百万円と相応の利益を確保しました。経営体力につきましては、自己資本比率は22%台と高い水準を維持しております。組合員数につきましては、年間で39名の脱退がありましたが、59名の加入があり、20名増加しました。

令和5年度は、当組合も入居する富山県医師会館が新築移転し、大きな節目の年になりました。今年度も当組合の使命達成のため邁進したく、引き続き当組合をご利用賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(単位：百万円)

主 要 勘 定	当期末(6.3.31)	前期末(5.3.31)	増 減
総 預 金 (期中平均残高)	38,899 (38,864)	38,955 (38,607)	△56 (257)
総 貸 出 (期中平均残高)	7,547 (7,377)	6,875 (6,686)	672 (691)
有 価 証 券 (期中平均残高)	23,235 (24,323)	25,424 (25,470)	△3,144 (△1,150)
預 け 金 (期中平均残高)	16,257 (14,489)	14,164 (14,947)	2,093 (△458)
コ ア 業 務 純 益	204	196	8
経 常 利 益	154	147	6
当 期 純 利 益	86	111	△25
自 己 資 本 比 率	22.39%	23.07%	△0.68%
組 合 員 数	1,344 先	1,324 先	20 先